



〒975-0031
福島県南相馬市原町区錦町一丁目 30 番地
TEL:(0244)26-1315
FAX(0244)26-1318
E-mail:sousou.kyouiku@pref.fukushima.lg.jp

相馬市公民館訪問：飯豊公民館（7/9）

相馬市公民館訪問（飯豊公民館）の概要

日 時 令和7年7月9日（水）13:30～14:30
場 所 相馬市飯豊公民館 和室
参加者 相馬市…4名、新地町…1名、相双教育事務所…2名 計7名

公民館訪問(13:30～14:30)

【相馬市飯豊公民館からの報告】

令和6年度生涯学習事業活動実績報告及び、
令和7年度生涯学習事業計画から

- 1 総合評価
- 2 特色ある事業
- 3 事業実施による特記事項
- 4 重点事項
- 5 学校、社会教育団体、地域組織との連携

令和6年度は718回の活動に、延べ6,240名の住民の方が参加した（参考：地区の住民数は3,840名）。特色ある事業で紹介された「ウォーキング教室」や「骨太けんこう体操教室」は、住民の健康保持増進に役立っている。住民の健康は個人の幸せだけではなく、家族の幸せ、そして、高齢者医療費の減少にもつながっている。

今年度の重点事項に「ハゼッコ教室」が挙げられている。一方、学校等との連携も課題となっていた。

課題：「ハゼッ子教室について」「公民館と地区との関わり合いについて」

【相馬市の公民館活動について】

相馬市内の各公民館で行われた特色ある事業では、成人向けの講座だけではなく、子ども向けの講座や、親子向けの講座が大変充実していた。日頃から地域の自然や歴史を学んだり、長期休業中に学習したりと、地域全体で子どもを育てていこうとしている。例えば、八幡公民館で行われている流しそうめんは、放課後子ども教室との連携が図られており、ふるさと教室での学びは学校行事に生かされている。化石探検は他の公民館と連携しており、公民館での学びがそれぞれ単発で終わるのではなく、つながり、広がりをもって構成されていることは、理想的な公民館活動と言える。

【ハゼッコ教室について】

昨年度の実績では、夏休みや冬休みの教室への参加率は高く、普段の参加率は低くなっている。一方で、「交流を深めてもらいたい」「講座に参加してもらいたい」という公民館事務局の願いは強い。そこで考えられる方策は、

- ① たとえ参加人数が少なくても、また休日でも「ハゼッコ教室」で学びたい、参加したいという子どもの思いを大切にしていく。
- ② 土曜日の出席率が低いので、平日の放課後子ども教室とタイアップし、多くの子どもたちに講座の良さを感じてもらう。
- ③ 各講座を1話完結にするのではなく、連続性を持たせるか、1年間を貫くような目標を目指していくようにし、それぞれの講座に出席したくなる仕掛けを作る。

などが考えられる。



相馬市飯豊公民館



【飯豊未来塾の可能性】

相双地区では放課後子ども教室は多くあるが、地域未来塾は皆無である。

〔地域未来塾とは…〕

- ・全ての児童生徒を対象に、教員OBや大学生などの地域住民の協力によって行う学習支援
- ・情報通信技術の活用による学習機会の提供

【飯豊版「カタリバ」の可能性】

島根県の益田市でも若者の流出という問題があった。「ふるさと教育を一生懸命行っても、多くの若者が出て行ったきり帰ってこない。」「様々な要因があり、人口流出は止まらない。」全国的な課題です。そこで公民館は、「カタリバ」を企画し。中身は特別なことをするのではなく、公民館で大人が子どもと語りあうだけである。大人が自分の生き様を中学生や高校生に語りかけるのです。若者たちは地域に話せる大人がいないという調査結果がある。以前のような地域社会が無くなってしまった現代では、公民館が意図的にこのような場を設けることが大変有効であった。

【ハゼッコ教室】⇒【飯豊版「カタリバ」】の機能も持たせられる

- ・「お菓子作り」
- ・「クッキング教室」
- ・「陶芸教室」

成人向け教室との合同開催や、教室卒業者による講師就任など、ちょっとした工夫で飯豊版カタリバになる

参考：東京大学出版会『公民館を再発明する』牧野篤〔著〕

【女性コーラス教室（コールかしま）の見学】

今回の公民館訪問では、実際に女性コーラスグループの活動の様子も見学させていただいた。この飯豊公民館でのコーラスグループですが、東日本大震災以前は隣の南相馬市鹿島区で活動していたグループが母体となっており、震災後に練習場所を探している中で飯豊公民館での活動が軌道に乗ったという歴史を持っている。参加者も飯豊地区の方だけではなく、南相馬市の方も所属しているということで、広域をカバーする活動となっている。また、公民館の教室という位置付けだが、実際は参加者が自主的に運営するサークルのような形になっており、理想的な社会教育の姿を見ることができた。



参加者の皆さんは合唱の経験者というわけではなく、この活動を通して歌を学び、人生を豊かなものとしていた。さらに、地域のイベントや県レベルの大会にも参加しており、学びを地域に還元している所も素晴らしいところだった。今後の活動にも、大きな期待が膨らんだ。



【これからの公民館と地区との関わり合いについて】

相馬市からの報告や、公民館だよりなどをみると、飯豊公民館をはじめ、相馬市内の公民館は地域密着型の事業を展開し、住民の学びに大きく寄与しています。そもそも、公民館は戦後の荒廃した地域を復興するための学びや、民主主義を広めていくために大きな力を発揮してきました。当時珍しかったパン食を広めることを目的としたパン作り教室を行ったり、女性が参政権を獲得したことに対する学習会を実施したりと、生活に密着した学びの場として日本中の地域で熱望されていました。

しかし、高度経済成長期になると核家族化や共働き、都市への人口集中といった生活スタイルの変化によって、公民館は次第に高齢者向けの趣味の講座を行う施設へと変貌していき、若い世代の足は遠のきました。実際、全国的に公民館数は減少しています。

ところがVUCAの時代と言われる今、戦後とは違った社会問題が次から次へと出てきています。人々に降りかかる課題も複雑化し、先の見えない社会になってしまいました。人々は、それらの課題にどう立ち向かっていけばよいのか分からず、途方に暮れています。それでは、どうすればよいのでしょうか？

そうです、今こそ公民館での学びが再び地域に必要になってきているのです。公民館の教室で学んだことを地域に少しでも還元できる場があるだけで、公民館活動は設立当初の理念を達成できるはずです。

でも、一度離れてしまった人々の足を公民館に向かせるのは大変なことです。講座の中身も戦後期のようなものを行っても時代にマッチしません。

今後公民館は、現代の社会に必要な要素を取り入れなくてはなりません。学習テーマでは、障がい者や外国人などの社会的包摂、地域活性化・地域振興等が必要になってきます。取組内容では、義務教育未修了者への支援や、人口減少や過疎化が進む地域における拠点としての機能強化に関する取組が必要不可欠です。公民館単独での社会教育、生涯学習で結実するのではなく、他の組織との連携も視野に入れた活動が、相馬市、飯豊地区の活性化に間違いなくつながってきます。